



ゆうこのおひさま通信

～だれもが笑顔でくらせるために～



一般質問にて

胸のリボンは、コロナ感染の偏見をなくそうという主旨のものです。

群馬県議会議員 **大林 裕子**

お世話になります。日ざしも暖かくなり、さくらも満開となりました。新型コロナウイルス感染対策では、まん延防止等重点措置が3月22日に解除されました。依然として陽性者数は高止まりであり、お一人おひとりの感染対策が重要となります。手指の消毒・マスク・3密をさけることを心がけて日常をとり戻していけたらと思います。

先日の一般質問では、テレビやインターネットの前にて応援していただきましてありがとうございました。今回の通信はその質問の内容を中心にお伝えします。今後ともよろしくお願い致します。



令和4年第1回定例会（2月16日～3月18日）が開かれました。

令和4年度の予算等が審議され、一般会計当初予算、総額8187億600万円が可決されました。

新型コロナ対策、飛躍に向けた施策、財政の健全性の確保に重点を置いています。

重点施策の主な内容

1. 新型コロナ対策・・・約2409億1094万円

- ・感染拡大防止、医療・検査体制の充実
- ・経済活動への支援など

2. 飛躍に向けた施策・・・約420億4000万円

- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
デジタル活用による事業の効率化を図る。
- ・グリーンイノベーションの推進
新たな科学技術を使い、環境問題に取り組む。太陽光発電設備やEV導入など。
- ・リトリートの推進
県の強みである温泉や農畜産物のもと、疲れたからだや心をいやす環境を整え、県内外・国内外からの誘客を促進する。
- ・教育イノベーションの推進
小学3年生～中学3年生までを35人学級とし、ICT教育を推進したり、夜間中学の設置等を推進する。
- ・災害対策など

3. 財政の健全性

- ・基金残高の確保、県債発行の抑制など



総務企画常任委員会審査風景



地方創生ブランド特別委員会 全員集合

大林裕子による 県議会での一般質問項目



① 学校教育を支える人材について

- (1) 補助教員の確保について（教育長）
- (2) スクールカウンセラーについて（教育長）
- (3) 部活動の地域移行について（教育長）
- (4) 様々な業務に取り組む教職員について

② ひきこもり支援について

（健康福祉部長）

③ 児童養護施設における メンタルケアの取り組みについて

- (1) 子どもと親への対応について（生活こども部長）
- (2) 愛着トラウマ対応の研修体制について（生活こども部長）

④ 小麦の生産振興について

- (1) 小麦の生産状況について（農政部副部長）
- (2) 学校給食における県内産小麦を活用したパンについて（農政部副部長）

⑤ 横断歩道の「手上げ横断」について

（警察本部長）

皆様の声を県政に！気軽に声をかけて下さい。

発行者：大林 裕子 〒370-3607 北群馬郡吉岡町小倉甲91 TEL.0279-54-3745 FAX.0279-54-0593

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

公式HP

Facebook



① 学校教育を支える人材について

Q 1 文部科学省の調査により、教員の欠員の状況が各地で生じていることが明らかになったが、本県の状況と取組は。

A 1 他県に比べて状況はまだよいと言えるが、危機感をもって対応している。従来の臨時教員の登録方法に加え、退職教員の電子システム登録制度や採用試験受験者へのリーフレット配布などの新たな取り組みを進める。

Q 2 県内全ての公立学校に配置されているスクールカウンセラーを有効に活用するため、どのような工夫をしているか。

A 2 小中学校で同じスクールカウンセラーを配置し継続的な支援を行ったり、各学校でスクールカウンセラーとともに工夫した相談体制に取り組んでいる。スクールカウンセラーは児童生徒のみならず、教職員への助言をして、学校にとって欠くことのできない存在と認識している。

要望

子どもたちにとって、心の安定が一番大切であり、相談したいときにすみやかに相談できるよう、増員も含めカウンセラーの配置を一考していただきたい。

Q 3

令和5年度から中学校部活動の段階的な地域移行が始まるが現状はどうか。

A 3

部活動運営あり方検討委員会で検討している。全国の実践事例の紹介を行うとともに、県スポーツ局や市町村教委等と連携し、休日部活動の段階的な地域移行に向けて取り組む。

要望

それぞれの地域に合った地域移行ができるよう、様々なモデルケースを早期に提示していただきたい。スポーツ局・生涯学習課などの横の連携をとりながら進めてもらいたい。

② ひきこもり支援について

Q 1

県のひきこもり実態調査をふまえた今後の取り組みは？

A 1

ひきこもりに対する正しい理解をするための取り組み、市町村における取り組みへの積極的な発信、民間支援団体・行政との連携強化や支援者の資質の向上を図る。

要望

県のホームページに民間の支援団体の情報を掲載することで、困っている方々が気軽にアクセスすることが可能になると思う。ぜひお願ひしたい。

③ 児童養護施設等におけるメンタルケアの取り組みについて

Q 1 虐待を受けた子ども、虐待を加えた親へのメンタルケアは。

A 1 児童相談所・児童養護施設と連携して、心理療法・心理教育を行っている。親御さんには必要に応じ医療機関などと連携を取りメンタルケアを行っている。

Q 2 虐待の連鎖を断ち切るにはきちんとした愛着トラウマ対応の研修体制が必要だと思うが。

A 2 児童相談所では、定期的な学習会を開催したり、愛着障害等への理解を進める。児童養護施設職員の研修には受講費用を補助する等、スキルアップに努めている。今後も、関係者の共通認識を図っていく。

要望

精神科医の協力を得て、ぜひ研修体制を整えていただきたい。

愛着障害とは、幼少期に養育者との情緒的なきずなの形成に何らかの問題を抱える状態

県内の児童虐待相談の状況について



<主な虐待者>

	夫母	夫父	夫父以外父	夫母以外母	その他	計
R2	1,058	889	216	21	102	2,286
R元	826	747	155	5	66	1,799
H30	683	476	115	18	82	1,374

出典：生活こども部児童福祉・青少年課「令和2年度児童虐待相談の状況について」

④ 小麦生産振興について

Q 1 小麦生産の現状と今後の取り組みについて。

A 1 現在小麦の収穫量は全国第6位。小麦は米だけでなく大豆・飼料作物の組み合わせで、水田のフル活用できる重要な作物。国の施策も活用しながら生産拡大を図りたい。

Q 2 県産小麦を活用したパンの学校給食への供給は。

A 2 令和3年度では、県産小麦100%のパンを学校給食に提供した割合は全体の5%。パン用小麦の生産拡大を進めたい。

要望

「県産小麦100%のパンを学校給食に」という声も大きい。ぜひ、「小麦県群馬」としてチャレンジしていただきたい。



⑤ 横断歩道の「手上げ横断」について

Q 1

本県の横断歩道上の歩行者事故の現状と取り組みは。

A 1

全国の状況と同じように事故数は減少しているが、死亡事故の大きな減少には至っていない。横断する意志を伝える手上げ横断への安全教育を幼児・児童・高齢者等に行っている。運転者には、横断歩行者への妨害違反の取り締まりも推進。

